

かたりべ150

豊島区立郷土資料館・芸術文化推進グループだより

開催中！

開館 40 周年記念 収蔵資料展

としま文学プロムナード

すずきしんたろう
鈴木信太郎記念館コレクション

三人の隠士たち — さいがん しゅんこう へきざん —
— 碎巖・春耕・碧山 —

郷土資料館は、二〇二四年六月に開館四〇周年を迎えました。それを記念して収蔵資料展「としま文学プロムナード」を、二〇二四年二月一五日（日）まで開催しております。

また、常設展示室大ケース内では、豊島区立鈴木信太郎記念館のコレクション

12月15日（日）まで開催中！

を展示し、「三人の隠士たち—碎巖・春耕・碧山—」を同時開催しております。

今回初めてとりあげる作家の作品・資料なども多数展示しております。

文化の秋、郷土資料館へぜひお出かけください。

二ページ・三ページにそれぞれの展示紹介を掲載しています。

開館40周年記念 収蔵資料展

としま文学プロムナード

同時開催
鈴木信太郎記念館コレクション
「三人の隠士たち」
さいがん しゅんこう へきざん
— 碎巖・春耕・碧山 —
豊島区立郷土資料館 常設展示室大ケース

2024年
10月1日(火)
▶▶ 12月15日(日)

- 開館時間：9時～16時30分
- 休館日：月曜日(10月14日、11月4日は開館)、10月15日、11月5日
- 入館料：無料
- アクセス：JR・地下鉄・私鉄「池袋駅」西口から徒歩7分(駐車場はありません。公共の交通機関をご利用ください。)

豊島区立郷土資料館
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-37-4
としま産業振興プラザ(IKE-Biz)7階
電話番号：03-3980-2351

ホームページ 公式X

1984 豊島区立郷土資料館 The Museum of Toshima City 2024

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

としま文学プロムナード



本展では、「地域と文学」をテーマに、

これまで収集した資料に関する文学者や事象について、年代を越えて地域ごとに紹介します。豊島区を四つの地域に分け、展示室を豊島区の地図に見立てて資料を配置しました。

なお、豊島区内にはこれまで多くの作家が居住していましたが、今回の展示では、資料を所蔵している主な作家をとりあげています。

■東部

作家・稲垣足穂（西巣鴨）の書籍・雑誌、詩人・田村隆一（南大塚）の書籍などを展示しています。推理作家・江戸川乱歩との関係性が見えてくる資料です。

■西部

作家・山手樹一郎（要町）の自筆原稿「黒髪地獄」「天の火柱」やテレビドラマ化された『桃太郎侍』台本、児童文学者・舟崎克彦（千早）が学習院大学をモデルに描いた『ぼっぺん先生と帰らずの沼』

の原画や動物や鳥などの原画を展示しています。

■南部

乱歩と同時期に区内に引っ越してきた推理作家・大下宇陀児（南池袋）の自筆原稿「草木傷心賦」などや雑誌、児童文学者・鈴木三重吉（目白）が主宰した雑誌『赤い鳥』（三重吉宅の近くに暮らした童画家・深澤省三の表紙の号も展示しています）や、児童文学者・坪田譲治（西池袋）が主宰した『びわの実学校』、書籍・雑誌などを展示しています。

■北部・中央

童画家・武井武雄（西池袋）の刊本作品や豊島区で体験した戦争の記録『戦中気候画帖』、豊島区で活動した日本童画会関係資料など、推理作家・江戸川乱歩（西池袋）の還暦を祝って描かれた松野一夫画《江戸川乱歩肖像画》、自筆原稿、雑誌などを展示しています。

「プロムナード」には、散歩や散策、遊歩道といった意味があります。この展示が、豊島区の文学を知る散歩道となれば幸いです。

（文学・マンガ 西方ゆり恵、佐伯百々子）

グッズ紹介

江戸川乱歩生誕 130 年にあわせ、松野一夫画《江戸川乱歩肖像画》をマグネットにしました！

また、展示にあわせ、豊島区と文学にまつわるモチーフを描いたマスキングテープも作成しました。展示終了後も販売しておりますので、ぜひお買い求めください。

■マグネット 300 円

■マスキングテープ 500 円



同時開催 鈴木信太郎記念館コレクション

三人の隠士たち

— 碎巖・春耕・碧山 —

鈴木信太郎記念館
ホームページ



レファレンスルームでは、鈴木信太郎の生涯や鈴木信太郎記念館について紹介するパネル・映像展示も行います。さらに、鈴木信太郎記念館では、高森碎巖の『権景山水図』原本を一月一日(金)〜七日(木)「五日(火)は休館」の期間限定で初公開します。

今回、常設展示室大ケースでは、南画家・高森碎巖(一八四七―一九一七)、南画家・西田春耕(一八四五―一九一〇)、漆工・青山碧山(一八四七―一九二四)の初公開の作品を中心に、豊島区立郷土資料館の分館である鈴木信太郎記念館所蔵の美術品や資料を展示します。

フランス文学者の鈴木信太郎(一八九五―一九七〇)は、二〇世紀前半の日本におけるフランス文学研究の基礎を築き、翻訳者、教育者としても功績を残した人物です。富裕な商家に育った信太郎は、教養として謡や仕舞を習い、能や歌舞伎の観劇にも頻繁に通うなど、幼少期から文化的な教育を受けました。

信太郎は、両親を通じて三人の芸術家たちと接する機会がありました。実家が粕壁宿(現春日部市)の脇本陣だった信太郎の母シンは高森碎巖と交流があり、シンを通じて碎巖と知り合った信太郎の父



高森碎巖《蓬萊春色図》
大正5(1916)年

政次郎は、碎巖の掛け軸を何本も購入し、碎巖が困窮した際は米やもち米を届けて生計を助けていました。また、西田春耕、青山碧山と政次郎夫婦が知り合ったのも碎巖を通じてのことでした。
信太郎は三人を「世俗に倣らず、名利を追わず、独り楽しんで自己の芸術境に陶醉」していた「風格のある隠士」と称しています。文人のような生き方が彼の心に刻まれ、文化に対する理解を深めていっ

たことが伺えます。
今回の展示では、高森碎巖、西田春耕、青山碧山という三人の芸術家の作品や関連資料を通じて、鈴木家と三人の関係性、信太郎に与えた影響などをご紹介します。また、信太郎が碎巖の影響を受けて熱中するようになった篆刻の関連資料として、谷崎潤一郎の手を経て信太郎が入手した富岡鉄斎(一八三六―一九二四)制作の陶印も初公開します。



青山碧山《紫陽花漆絵盆》
明治-大正期(19-20世紀)



印章 鈴木信太郎作
昭和15-42(1940-67年頃)

鈴木信太郎記念館では、常設展示として、信太郎が蒐集した貴重な書籍や彼の研究・著作などを公開しています。また、年代の異なる三つの棟で構成された建築も見どころです。この機会に、鈴木信太郎記念館にも足を運んでいただければ幸いです。
(鈴木信太郎記念館 徳力まもり、奥村景子)
【参考文献】鈴木信太郎「古風な思出」『文学通走』改造社、一九四九年
鈴木信太郎著、平井啓之他編集『鈴木信太郎全集 第五巻 随筆』大修館書店、一九七三年

トキワ荘通り昭和レトロ館 常設展資料のむところ② 昭和40年頃の日常にタイムトリップ！

トキワ荘通り昭和レトロ館（豊島区立昭和歴史文化記念館）の2階・常設展示室（展示室1・4）は、豊島区立郷土資料館の学芸員が展示を担当しています。今回の常設展資料の見どころでは、2階のアパートとして使用していたエリアと、展示室2「昭和のくらし」昭和40年頃の日常」をご紹介します。

トキワ荘通り昭和レトロ館は、昭和20年代の戦後復興期以降に建てられたマーケット「味楽百貨店」を改装・整備したもので、2階の大部分はアパートとして使用されてきました。建築から70年以上が経過している為、この間に数度のリフォームが行われ間取りも変化していますが、引き戸や襖などの建具類を含め、



トキワ荘通り昭和レトロ館
8号室の部屋番号札
（トキワ荘通り昭和レトロ館公式Xより）

基本的には建築当初のアパート空間を引き継いだ状態になっています。

居室は10室ほどとなっており、各部屋の入口には部屋番号の札が付けられています。が、「死」を連想する4号室、「苦」を連想する9号室がなく、縁起の悪い数字を除くという昔のアパートならではの特徴が見られます。トイレや浴槽は各部屋の中にはなく、トイレは廊下突き当り左側にあった共同トイレを、入浴は近隣の銭湯を利用していたと思われます。

展示室2「昭和のくらし」 昭和40年頃の日常」

展示室2「昭和のくらし」昭和40年頃の日常」では、一九六五年頃に一組の若い夫婦が生活していたことを想定し、和室6畳間に当時一般的に普及していた家電製品、家具、衣服、生活道具類、および参考資料等を展示しています。

昭和40年の豊島区企画室による調査報告では、昭和39年の豊島区において区内のアパート居住率は総世帯数の35%となっており、23区の中でも第2位となる居住率の高さであったとされています。

戦後の日本では、第一次産業人口の減少と第二次・第三次産業人口の増大―農村から都会への若者の流出と都市の発展が、急激なスピードで進んでいくという流れがありました。豊島区の場合も、そうした流れの中でアパート需要がある若い単身者や夫婦などの世帯を吸収し続け、超過密 20代人口の突出、世帯規模の縮小という人口構造を、高度経済成長期までに形成していったと考えられます。この展示室では、そうしたアパートに居住する若い単身・夫婦の世帯率が高まった時代を再現しています。

展示室内は、季節に応じて室内の一部の展示替えを行っており、春夏シーズンには夏服と扇風機、蚊やりぶたなどを、秋冬シーズンは冬服と土鍋、みかんなどの食品サンプルを展示しています。昭和30年代に入ると家電製品が一般家庭に広く普及しはじめます。そのためここでは、白黒テレビ、真空管ラジオ、電気炊飯器



トキワ荘通り昭和レトロ館
展示室2の風景(秋冬版)

などの代表的な家電を中心に展示し、押し入れ付近にはミニスカート、パンタロン（ベルボトムジーンズ）など、昭和40年代に流行した主なファッションを再現しています。また、小さいお子さんを中心に注目されているのは、ちゃぶ台の上にある、当時の朝食を再現した食品サンプルです。アジの開き、味噌汁、きんぴらごぼうの小鉢、白ごはんなどの定番の朝食となっており、「リアルでおいしそう」などのご感想をいただいています。

ご来館の際にはぜひ、当時を知る世代には懐かしい、知らない若い世代には新鮮で面白い、昭和40年頃の日常風景を味わっていただけましたら幸いです。

（郷土 塩見香奈）

【参考文献】『豊島区史 通史編四』（東京都豊島区史編纂委員会編、一九九二年）、『豊島区史 資料編六』（東京都豊島区史編纂委員会編、一九九〇年）、『豊島の統計』（昭和60年版、豊島区編）



トキワ荘通り昭和レトロ館
展示室2の風景(春夏版)

郷土資料館ワークショップ報告 はんこペタペタ！ 消しゴムはんこをおす、つくる！

郷土資料館では、レファレンスルーム

にて六、七月に消しゴムはんこのワークショップを三回おこないました。平成
 二九年（二〇一七）から「はんこペタペ
 タ！」と冠した消しゴムはんこのワーク
 ショップが始まり、近年では当館の恒例
 行事となっています。各回とも幅広い年
 齢層の方々にご参加いただき、なかには
 郷土資料館分館、イケ・ビズ区民ひろば
 西池袋、区内の図書館や地域文化創造館
 に配架したチラシを片手に楽しみにご来
 館された方もおり、うれしい限りでし
 た。今回は参加者が消しゴムはんこづく
 りを体験する新たな試みをおこないまし
 た（三回目、事前申込制）。

一回目は六月二三日（参加者…七名）
 に開館四〇周年記念事業として「はんこ
 ペタペタ！〜④ポチ袋を作ろう〜」と題
 し、松竹梅や富士山、鯛をモチーフにし
 た消しゴムはんこを用意しました。二回
 目は七月六日（参加者…九名）に「海の
 日を取り☆はんこペタペタ！〜しおり
 を作ろう〜」と題し、豊島区内の遺跡か
 ら出土したサザエ、ヤマトシジミ、アワ

ビ類などの貝類や江戸時代の旬の食べ物
 を紹介した『魚鳥野菜乾物時節記』に記
 されていたタコ、カニ、イカをはんこの

モチーフにしました。なお、このワーク
 ショップで用いる消しゴムはんこは講師
 （当館スタッフ）が制作したものです。
 参加者の皆さんは熱心にはんこの組み合
 わせや配置を考えられていました。皆さ
 んの既成概念にとらわれない自由な発想
 に触れ、スタッフも新鮮な驚きがありま
 した。また、講師からスタンプインクの
 使い方を教わり、グラデーションに挑戦
 したり、色使いを工夫し、個性あふれる
 ポチ袋としおりが出来上がりました。

三回目は七月二〇日（参加者…十名）
 に「お名前はんこを彫ってみよう〜はん
 こペタペタ！スペシャルバージョン〜」
 と題し、自分の名前のアルファベットも
 しくはカタカナ一文字を消しゴム板に彫
 り、お名前はんこを二つ制作しました。
 円形、正方形から好きな形を選びます。
 初めは慣れない彫刻刀に緊張気味だった
 皆さんも、二つ目の制作となると正方形
 の角をおとして隅丸方形にしたり、文字

の周りに枠線を入れたりと自由なアレン
 ジを楽しんでいました。

お名前はんこづくりだけでなく、豊島
 区にまつわる東京さくらトラム（都電荒
 川線）、巣鴨・眞性寺の江戸六地藏尊、
 すずきみみずく、アサガオなどをモチー
 フにした消しゴムはんこを用意し、ポス
 トカードにおしました。

なかには制作したお名前はんこをさつ
 そく用いて落款入りの暑中見舞いはがき
 をつくられた方もいます。

消しゴムはんこは版画用の消しゴム板
 に図案や文字をトレーシングペーパーに
 書き写し、ゴム版に転写させてカッター
 や彫刻刀で彫ります。ワークショップを
 開催するにあたり、当館のスタッフも事
 前にはんこづくりを体験しました。ほと
 んどのスタッフが初挑戦のため、柔らか
 い消しゴム板への彫刻刀の力加減に苦戦
 しました。このような実感を元にレク
 チャーの方法を何度も検討し、作業の手
 順をシュミレーションしました。

また、参加者の皆さんがご自宅に帰っ
 てからもお楽しみいただけるように各

回、モチーフの解説シートをお渡ししま
 した。

今後も郷土資料館ではワークショップ
 を通じて、豊島区や日本の歴史・文化へ
 の興味関心を高めていただけるよう、消
 しゴムはんこのワークショップを実施し
 ていきたいと思っています。詳しくは『広報
 としま』、当館ホームページ・SNSを
 ご覧ください。

（郷土 都築由理子）



レファレンスルームのフォトス
 ポットで記念撮影



三回目「お名前はんこを彫って
 みよう〜はんこペタペタスペ
 シャルバージョン〜」の様子

第19回池袋モンプアルナス回遊美術館 東京・区立美術館ネットワーク連携事業2024 豊島区×立教大学 講演会「美術に見る東京の増殖―テクノロジーと美術」開催報告

今年も五月から六月にかけて、街を回遊しながらアートを楽しめるイベント「池袋モンプアルナス回遊美術館」が開催されました。豊島区も近年、立教大学と連携し、美術に造詣の深い専門家の方々をお招きして、講演会を開催しております。今年は、東京二三区内の公立美術館が参加する「東京・区美術館ネットワーク」より、練馬区立美術館学芸員 加藤陽介氏をお招きし、令和二年度に開催された加藤氏のキュレーションによる展覧会「電線絵画展―小林清親から山口晃まで（以下、「電線絵画展」）（於：練馬区立美術館二〇二一年）を契機として、近代絵画の中に描かれる電線や鉄道などの電化の風景を通し、東京という都市がどのように広がっていったのかが見えてくる、大変興味深いお話を伺う機会となりました。

「電線絵画」、こんなジャンルあったかしら？と、アナログな美術と電線というテクノロジーなものがどのように結びつくのか、何とも不思議な感覚を感じさせる名称ですが、本企画展の副題にあるように、小林清親という幕末から明治期を生きた浮世絵師である彼の作品《高輪牛町朧月景》（明治一二（一八七九）年）には、電線や鉄道が登場し、明治の世が猛ス



令和6年6月1日講演会
於：立教大学マキムホール

ピードで近代化の波を受け入れていく様子が描かれています。ほかにも河鍋晩斎、月岡芳年、五姓田義松、高橋由一、岸田劉生、小糸源太郎、松本竣介、佐伯祐三、織田一磨等々、美術愛好家なら誰でも知っている多くの近代美術家が、電線や電柱を描いていることにも驚かされます。河野通勢《雑司ヶ谷風景》、坂本繁二郎《三月頃の牧場》では、大正時代のまだのどかな田園風景の中に、しつかりと電柱や電線が描かれ、都市化され広がっていく武蔵野（豊島区）の風景が描かれています。

彼らが電線や電柱を描くのは、東京の都市の風景、新しい時代を象徴する誇らしいものとして、むしろ作品に取り入れてたかったのではないかと加藤氏は語りま

す。電線、そして鉄道が広がり、東京が拡大していく先に画家たちは出掛け、新たな風景を見だし、名も無かった風景を美術作品へと昇華させていく。本講演を通して、美術作品の中に、時代の移り変わり、東京という都市が形成されていく歴史を垣間見ることとなりました。

講演会参加は事前予約制としておりましたが、三七名の方にご参加いただき、時間を延長しての熱いトークに、「もっと話を聞きたかった」、「是非、続編をお願いします。」といったアンケートも頂戴し、盛況のうちに閉会となりました。

「電線絵画展」は、目を見張る画期的な企画として、美術愛好家の方には記憶に新しい展覧会の一つでしょう。開催当時はコロナ感染拡大の真只中、来館者が減少の一途を辿る厳しい環境の開催ながら、何と、一万四千人を超える来館者を動員し、同展覧会カタログの初版は完売という快挙を成し遂げた企画展です。

加藤氏が一〇年の歳月を掛けて企画されたという「電線絵画展」。本誌では、ご紹介できないくらい盛り沢山のお話をいただき、続編も期待したいところですが、待ちきれない方には、現在も再版され、書

店でお求めいただけるカタログ『電線絵画 小林清親から山口晃まで』（求龍堂）がおすすめです。

今後も、美術をテーマとして、様々な分野の方を講師にお招きした講演会を継続してまいります。どうぞ、お楽しみに！

（美術 小野まどか）

編集後記

「かたりべ」一五〇号をお届けします。郷土資料館は、一〇月一日から、休館日を変更しました。これまで休館だった祝日・休日と第3日曜日も開館することになりました。

◆休館日：月曜日（祝日または休日の場合は開館し、翌平日に休館）、年末年始、展示替え等にもなる臨時休館 ※詳しくは当館ホームページの開館カレンダーをご覧ください。

現在、鈴木信太郎記念館と連携した、秋の収蔵資料展を開催しています。当館にて豊島区ゆかりの文学・芸術散策をお楽しみください。

皆様のご来館をお待ちしております。

（横山）

かたりべ
No.150



2024年11月20日
豊島区立郷土資料館
東京都豊島区西池袋2-37-4
としま産業振興プラザ7階
電話 03-3980-2351

